

3類型	鈷工業品	通巻番号	4-19-048
地域資源名	伝統的工芸品(九谷焼)	認定日	平成20年 3月26日
地域	金沢市、小松市、加賀市、白山市 能美市、川北町、野々市町	所管省庁	経済産業省

事業名： 九谷焼と手作り吹き硝子の融合商品「九谷和グラス」の商品開発と販路拡大

会社名：清峰堂株式会社

所在地：石川県能美市新保町ヲ48

連絡先：TEL：0761-57-2133
FAX：0761-57-2135

HP：<http://www.seihou-do.com/>

事業概要(新たな活用の視点)

- ・九谷焼は日本有数の陶磁器であるが、近年は需要の変化等により、売上はピーク時の3割にまで落ち込んでいる。
- ・同社は、「和洋テイストを自然につなぐ(調和する)うつわ」を商品コンセプトと定め、磁器とガラスを接合する技術を7年の歳月を経て開発することで、九谷焼技術を駆使した脚部と手作り吹きガラスの江戸硝子を組み合わせた「九谷和グラス」の開発に成功。
- ・平成18年にはグッドデザイン賞(新領域デザイン部門)を受賞。

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

- ・磁器とガラスを接合させた商品は、全国的には2~3点見られるものの、接合強度・商品ラインナップ数で優位性がある。

◆市場性

- ・「食」が「文化」のひとつであるという認識の広がりから、女性を中心として食器への本物志向が高まり、脚付きガラスの単価上昇や販売量が増加していることから、本商品へのニーズは高い。

◆販路

- ・展示会に出展することで、現在の販路であるチョイスギフトへの売上を確実に伸ばすとともに、都市部百貨店での定番商品化を図る。
- ・市場調査を通して、消費者ニーズを商品開発に活かすとともに、3年目より海外での販売を計画している。

地域資源における関係事業者との連携

- ・九谷焼産地問屋各社と連携して九谷焼脚部の生産と絵付けを行っており、産地問屋6社で構成する「工房九谷」とは共同で脚部の商品開発や様々な九谷焼商品のPRを行っている。また、地元ガラス作家との連携も行っている。
- ・石川県九谷焼技術研修所とはデザイン開発で、石川県九谷焼技術センターとは、素材や絵の具、製品強度等技術面で連携している。



【売価5千円クラスの商品】



【売価1万5千円クラスの商品】



【売価5万円クラスの商品】